

研修会アンケート結果（小部会用加工）

参加申込み：103 名

zoom 接続数：59 回線

アンケート回答：36 名

（回収率約 35%）

1 職種について

薬剤師	2
保健師	10
看護師	10
介護支援専門員	6
社会福祉士	2
介護福祉士・介護員	3
管理栄養士	1
事務職	1
公認心理師	1

3 職位について

管理者・所長	7
課長・課長補佐	5
係長・主査	7
主任	5
スタッフ	11
その他（専任職員）	1

2 経験年数について

5 年未満	7
5 ～ 10 年	4
11 ～ 20 年	13
21 年以上	12

4 講演「チームで支える在宅ケア～みんなが一歩前へ！」について

理解できた	30
まあまあ理解できた	5
あまり理解できなかった	1

5 4で答えた理由について

全体としては多くの参加者が講義内容を理解し、共感を持って受け入れたことが伺える。

【理解できた】

- ・事例を自分や親の身に置き換えることで、在宅医療介護に対する理解が深まった。
- ・講義が分かりやすく、本人と家族の意思決定の重要性を再認識した。
- ・利用者の暮らしを支えるための連携や意思決定支援の工夫が学べた。
- ・対象者主体の支援の考え方やアプローチの重要性が理解できた。支援者は相手の意思を尊重し、気持ちを受容する姿勢が重要であると学んだ。
- ・終末期の事例への支援を通じて、本人の希望を確認することの大切さと気持ちを大切にしたい関わりについて理解が深まった。

【まあまあ理解できた】

- ・講義で触れられた訪問看護の役割や心構えが伝わってきた。
- ・利用者の意思確認の重要性や、心変わりを受け入れることが大切であると感じた。
- ・職種によってできることが異なるが利用者の考えや思いを聞く重要性を再認識した。
- ・在宅療養の難しさや必要性を考える機会となり、患者とのコミュニケーションの重要性を理解した。

6 実践報告1「精神障がいを持つ方の訪問看護事例」についての感想（要約）

- ・精神障がい事例を学ぶことで、新たな知識を得ることができた。
- ・精神疾患の患者との関わりは困難であるが、地域での支援に感謝している。
- ・訪問看護師の患者への向き合い方や、看護の基本（受け止めること、共感すること）を再確認した。
- ・本人の意思や気持ちを尊重することの重要性を認識し、患者の思いを否定せずに関わることが大切であると感じた。
- ・行動の背景を確認し、希望を実現する方法を共に検討する姿勢が必要であると学んだ。
- ・TIC（Trauma-Informed Care）を通じて、患者の気持ちに寄り添った支援の重要性を理解し、服薬管理においても本人の意思を尊重する関わりが求められることを再認識した。

7 実践報告 2「人工呼吸器を装着しながら在宅療養を続ける事例」についての感想（要約）

- ・資源の少ない僻地での多職種連携により本人と家族の選択を尊重する姿勢が感じられた。
- ・本人や家族の思いを尊重することの重要性を再認識した。
- ・多職種の連携が見事で、病気を抱えながら「家で暮らしたい」という希望を支えることに感動した。
- ・意思決定支援と多職種連携の重要性を再確認した。
- ・主治医とかかりつけ医とのケア会議の設置が素晴らしいと感じた。
- ・在宅療養を支えるための関係機関の努力がよく理解できた。
- ・地域初の事例であっても、多職種の連携が大切であることがわかった。
- ・深川市での在宅療養の継続と支援の連携が素晴らしいと感じた。
- ・病院と訪問看護が情報共有し協働することで利用者と家族の満足が得られると再確認した。
- ・本人と家族の希望が異なる場合でも、話し合うことが大切であると学んだ。
- ・自分の支援を振り返る良い機会となった。
- ・難病患者に対する支援の重要性を再認識し、チームでの協力が不可欠であると感じた。

家族の負担と地域資源の不足が課題であると実感した。

- ・人工呼吸器を装着しながらの在宅療養は難しいが関係機関の連携が重要であると感じた。
- ・すべての支援が必要な場合、家族の協力が不可欠であり、地域の人口やマンパワーも考慮すべきであると感じた。

8 意思決定支援で印象に残ったこと、参考にしたいこと（要約）

- ・本人や家族の意思に寄り添うことが、介護者にとっても本人たちにとっても大変であるが、不自由の中に自由があると感じた。
- ・対象者の思いをよく聞き、将来を考えた上で一緒に解決策を考えることが重要であると再認識した。
- ・どんな希望を持っているかを聞き、共に考え寄り添う看護師でありたいと思った。
- ・初回面談での本人の意思確認をシンプルに行うことを意識したいと考えた。

- ・相手を受容する態度で誠意を持って対応することが大切であると感じた。
- ・本人の意向確認を行うタイミングを多く設ける必要があると感じた。
- ・特別な支援や資源がなくても支援者の意識を変えれば支援の可能性が広がると感じた。
- ・対象者の気持ちに寄り添う姿勢を学び、それを生かしていきたいと思った。
- ・患者の意思を尊重し、納得できる関わり方を心がけたい。
- ・自分の先入観を振り返り、利用者の意向を優先することの重要性を再認識した。
- ・支援者の思いや考えを棚上げし、本人主体の意思決定を支援する必要性を感じた。
- ・今の気持ちを受け入れることが重要であり、時間を置くことも参考になった。
- ・問いかけたことへの返事を急がず、気持ちが変わっても良いことを前提に接することが大切であると感じた。
- ・本人と家族の意思が異なる場合は、すり合わせが重要であると再認識した。
- ・本人の選択と家族の心構えを大切にし、支援していくことが必要であると学んだ。

9 本日の研修会全体を通して学んだこと（複数回答）

在宅ケアでできることが理解できた	31
訪問看護の役割が理解出来た	29
生活を見る視点が広がった	23
連携の大切さが理解できた	32
自分自身の看護観を考える機会となった	20
自分自身の実際の看護を振り返ることができた	19
自分の所属において今後よりよい看護について考えることができた	14

10 研修会の時間について

長い	0
短い	1
ちょうど良い	35

11 研修会全体の感想

- ・在宅医療を改めて考えるきっかけとなった。
- ・看護と介護の双方に共通する点が多く、今後役立てたいと感じた。
- ・在宅看護の基本や様々な事例から、必要な関わりについての気づきがあり、とても勉強になった。
- ・看護職以外の職種も研修に参加できたことがありがたかった。
- ・自身の支援を振り返り、支援者としての考えや気持ちを整理する良い機会となった。
- ・支援困難な事例に対して広い視野で向き合っていたかを反省した。
- ・対象者の幸せや望みを念頭に置いて支援する必要性を再認識した。

- ・意見交換できるとさらに良かったが、時間が長くなることも考慮すべきであると感じた。
- ・在宅支援に直接関わっていないが、他職種の実践を通じて学びを得る良い機会だった。
- ・訪問看護に関わる機会が少なかったが、在宅療養の重要性を理解できた。
- ・今後の課題を考えつつ、利用者との関わり方を改めて考えることに繋がる研修だった。

12 ケアカフェを知っていますか

知っている	34
知らない	2

13 ケアカフェに参加したことはありますか

参加したことがある	25
参加したことがない	11

14 10月10日開催のケアカフェに参加できますか

参加したい	17
検討中	9
参加できない	10
参加したくない	0

15 開催方法の希望について

Web 開催が良い	19
集合研修が良い	8

- ・併用し、集合でも Web でも都合の良い方法で参加できるのもよいかと思いました。
- ・研修会内容によろと思います。内容によって使い分けが良い。
- ・その時の状況によりどちらでも。
- ・どちらも良さがあるので、その時の状況により、検討できるとよいと思います。
- ・Web のメリットデメリットもあるため、支援者同士が語り合う場面は対面が良い。

16 希望する研修会テーマについて

- ・クレーム対策
- ・看護職の倫理
- ・地域で考える ACP
- ・接遇に関わるテーマがいいと思います。スタッフと一緒に学習したいと思います。

17 その他ご意見・ご感想

- ・今回に限らず、その回参加できなかった方向けに、アーカイブ配信等も行うのはいかがでしょうか？ もちろん公開が望ましくない、詳細な事例や特にテクニカルな内容についてはそのままでは難しく、カット・要約・補足等の処理や関係者の承諾が必要で、手間やリスクが生じる難点がありますが。内容によっては、他領域の支援者や一般に向けても良いかもしれません。